

2020年度 第1回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2020年7月18日(土) 10時~12時
- ◇方法 Zoomによるオンライン研修
- ◇参加者 【教員等】
島、新宮、村上、辻本、坂地、赤松、春日、藤江、川崎(耳成南小)、川崎(五條高)
- 【学生】
福田、山崎、辻本、西條、根本、北野、松岡、宇和山、飯村、山田、福井、谷垣
- 【源流館・川上村】
尾上、木村、古山、成瀬、加藤、奥田
- 【教育大】
中澤、大西、杉山 31人

◇内容

1. 自己紹介

2. 教員からの授業計画の紹介

島先生 : 地域の山地と有明海のつながりの授業化

赤松先生 : 4年生社会科 川上の水 水が生まれるところ 森から水が生まれている(源流)
水が生まれるシステムの理解 生態系の理解・生物多様性保全の重要性
河口部の水質汚染・プラスチック汚染へ ライフスタイルの振り返り
コロナ禍によるつながりの分断の状況における人と人のつながっていく過程の経験を体験させる

川崎先生 : 2年生生活科・虫・子ども達の実態把握から、育てたいポイントを明らかにしていく

春日先生 : 3年生 昆虫・カブトムシをつかまえる→自然環境 生き物同士のつながり 生態系の理解
道徳「ヤゴ救出作戦」 自然環境の保全

新宮先生・村上先生 : 4年生総合的な学習の時間: 平城小の名前の由来 秋篠川をテーマに
坂地先生 秋篠川の自然・川調べ・生き物(カメ・カモ・カエル) 関心を高めた

川の役割へ 源流館見学(吉野川と秋篠川の比較) 歴史×環境

川崎先生(五條高校): 吉野川・紀の川

3. 森と水の源流館からの情報提供

(1) 森と水の源流館とは

- ・紀伊半島の南東部から始まる水の流れ 吉野川・紀ノ川
- ・川上村の面積は大阪市がすっぽり入る 93%が森林 23の集落が点在している
人口は1313人 小中学校が各1校 34名 高齢化率が57.2%(県1位)
昭和34年・伊勢湾台風 大滝ダム(国土交通省)・大迫ダム(農林水産省)・農業用水
吉野川分水(大和盆地の水不足の解消・水田7074ha 畑地195ha)
緑のダム 吉野川源流 水源地の森
吉野林業が始まった地域「密植・多間伐・長伐期」土倉庄三郎
川上村は源流の村 吉野川・紀の川によるつながり(人々の営み)

「水質で語れば悪者さがし」・「恵みで語れば互いへの感謝」になる

「川上宣言」：下流にはいつもきれいな水を流します

「川上宣言」×SDGs 関連性を見出していく 「川上村SDGsマトリックス」

「主役は自分、できることからゴールを目指そう」

- ・川上宣言に対する村民の気持ち：村民の理解が深まり、村の価値に気づき始めている
- ・川上村がESDに取り組む背景 SDGsに対する村民の背景
川上宣言とSDGsが川上村の目指しているものが重なっている。間違っていなかった。
- ・流域学習会 村民への学習機会の提供（地域のことを知るところから始める）
- ・川上村以外の地での活かし方は？
人の営みに学ぶ
- ・全国の源流里協議会 流域経営の1つの事例になっている 流域治水
- ・ダム：紀ノ川流域の防災・減災 安定した農業用水の提供
失ったものも大きい 思い出・財産・生き物のすみか・人と人のきづなへの影響

(2) スタッフの専門領域の紹介

木村さん：コケ植物専門 里山・生物多様性

川上村のいいところ 原生の自然が残っている 持続可能な木材生産が始まった場所
自然を上手に利用する文化がある カシワもち サルトリイバラ
日本全体の水の神様

成瀬さん：日本古代史専門 歴史的側面から川上村を研究 縄文期、中世史・城郭調査、
昔の林業の写真の収集（県立図書情報館）

索道：大淀高校から大峰山へ 二見駅 和歌山県富貴へ 防城峯に基礎が残っている
東山中の索道 野猿 栄山寺の前にあった
金剛山の明治 木が残っていない・燃料に

古山さん：専門は昆虫、昆虫観察会講師、

「つながり」をテーマに 昆虫と人をつながり・流域のつながり

「流域つながり絵巻」を提供 「生き物からの挑戦状」ポスター、観察カードの提供
昆虫のふしぎを見つけることが虫好きにするきっかけ

4. SDGsの学びへ

- ・谷垣徹（奈良教育大）

○古山さんから面白いお話聞けました！昆虫の生き方から「ジェンダー平等／障がい者の問題」を考
えられる！新しい視点でした

- ・尾上忠大

4,質の高い教育（授業づくりに取り上げてもらて、役場や村民も地域を見直す）

- ・飯村 竣平

環境に関わるSDGs（14, 15など）はもちろんのこと、貧困をなくすなど一見つながっていないよう
なことでも、水をきれいにする、環境をよくするという点からはつながっている。ほとんどのSDGs
と関わっているように思う

- ・西條秀哉

水を飲料水,生活用水と考えて 目標 1、3、6、11 が当てはまりそうです

- ・杉山拓次（奈良教育大次世代教員養成センター）

SDGs の視点から、春日山と川上村の源流の森の比較とつながりを考えてみたい。

- ・Kai Okuda

ダムは水力発電もしているので、7 のクリーンなエネルギーの視点なども意見に挙がった。

- ・島俊彦

17 パートナリーシップ（教員や学生などと連携した授業作りによって、持続可能な社会づくりを推進する本セミナーの取組）

- ・西條秀哉

環境資源と考えると 目標 12、13、14、15 が当てはまりそうです

- ・福田実莉

川崎宣言は海洋資源を守るという視点で目標 14 とかかわりを持っている。宣言の 4 つ目には子供たちの教育について書かれており、目標 4 とかかわっている。ダムでの水力発電を行うことによって目標 7 とかかわりを持っている。

※次回は 8 月 18 日（火）10 時～12 時 オンラインで開催します。